

平成19年度
大阪府における石綿の健康リスク調査報告書

平成20年6月
大阪府

大阪府における石綿の健康リスク調査報告書

目次

1. 目的	2
2. 内容	2
(1) 調査対象者	2
(2) 調査内容	2
(ア) 問診及び登録	2
(イ) 検査の実施	2
(ウ) 医学的所見に基づく翌年度以降の継続調査協力者の選定	3
(エ) 翌年度以降の継続調査	3
(オ) データの集約	3
3. 結果	4
(1) 調査協力者数	4
(2) 調査協力者の医学的所見・ばく露歴の整理	5
4. 考察	21
5. 今後の予定	21
6. 参考資料	22

1. 目的

一般環境を経由した石綿ばく露による健康被害の可能性があった大阪府泉南地域及び河内長野市において、石綿関連工場等の周辺住民及び居住歴のある住民等に対して、問診、胸部X線検査、胸部CT検査等を実施することにより、石綿ばく露の医学的所見である胸膜プラーク等の有無や、健康影響との関係に関する知見を収集し、石綿関連疾患の発症リスクに関する実態把握を行う。

2. 内容

(1) 調査対象者

原則、平成2年以前に大阪府泉南地域（岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町）及び河内長野市に居住歴があり、一般環境を経由した石綿ばく露の可能性のある40歳以上の者を調査対象者とした。

(2) 調査内容

(ア) 問診及び登録

調査対象者を平成18年度の泉南地域の調査協力者（以下、「継続協力者」という。）に加え、新たに泉南地域及び河内長野市の市・町広報紙等により募集。新たな応募者に対し、保健師立ち会いの下、問診を実施し、問診の結果、石綿ばく露の可能性があると認められた者の内、調査協力に対する同意を得られた者を調査協力者として調査登録台帳への登録を行い、今後の検診結果を調査協力者において記録いただくための「石綿ばく露による健康影響管理ノート」を発行した。

(イ) 検査の実施

問診終了後、継続協力者には原則、胸部X線検査のみ実施し、医師が必要と認めるものに対しては胸部CT検査を追加実施した。また、新規協力者に対しては、胸部X線検査及び胸部CT検査を実施した。それぞれの検査については胸部X線検診車及び胸部ヘリカルCT検診車を活用した。

検査実施日	検査内容	受診者数(人)
平成19年11月12日(月)	胸部X線	46
平成19年11月13日(火)	胸部X線	65
平成19年11月19日(月)	胸部X線	64
平成19年12月2日(日)	胸部X線・CT	39
平成19年12月6日(木)	胸部X線	48
平成19年12月8日(土)	胸部X線・CT	21
平成20年2月3日(日)	胸部X線・CT	84
平成20年2月5日(火)	胸部X線・CT	71

なお、過去1年以内に胸部X線検査やCT検査を受診している調査協力者については、その際の検診結果や検診データの提示を求め、原則、胸部X線及びCT検査は実施しなかった。

検査結果については、調査協力者に通知するとともに、受診者台帳及び調査登録台帳に登録した。

(ウ) 医学的所見に基づく翌年度以降の継続調査対象者の選定

財団法人大阪がん予防検診センター及び大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターにおいて読影を行った後、医学的所見を確認の上、次のとおり選定することとした。

【医学的所見に基づく選定】

- ① 石綿健康被害救済法の対象疾病となった者は、その時点で調査終了とする。
- ② 石綿ばく露に関する医学的所見が認められる者のうち、医療の必要がないと判断された者は、翌年度以降の継続調査対象とする。
- ③ 石綿ばく露に関する医学的所見が認められる者のうち、医療の必要があると判断された者は、調査終了とするが、治療終了後、調査対象者となることを妨げない。
- ④ 石綿ばく露に関する医学的所見が認められない者のうち、医療の必要がないと判断された者は、翌年度以降の継続調査対象とする。
- ⑤ 石綿ばく露に関する医学的所見が認められない者のうち、他の疾病により医療の必要があると判断された者は、調査終了とするが、治療終了後、調査対象者となることを妨げない。

上記②または④と判断された者については、1年後の受診勧奨を行う。

なお、①、③及び⑤と判断された者についても、同意を得た上で、可能な限り、治療経過等の把握に努めることとした。

(エ) 翌年度以降の継続調査

前記【医学的所見に基づく選定】で②または④と判断された者は、大阪府の受診勧奨により、年1回、胸部X線検査、必要に応じ胸部CT検査等を受診する予定。

なお、検査の内容及び受診の必要性の可否は、前回の検査結果等を総合的に勘案して判断するものとする。

(オ) データの集約

大阪府は、上記(ア)～(エ)の一連の作業について、大阪府アスベスト健康対策専門家会議の意見も聴取して実施し、データ集約を行った。

3. 結果

(1) 調査協力者数

問診・胸部X線検査、胸部CT検査を受診・資料提供した者 438名

このうち、

- ① 平成2年以前に大阪府泉南地域及び河内長野市に居住していた者
438名
- ② 上記①のうち、現在も泉南地域及び河内長野市に居住している者
424名

①の受診状況

表2 年齢階層別ならびに検査項目別受診者数(取りまとめ時に報告)

年齢区分	受診内容	合計		男		女	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
30～39歳	問診+胸部X線+胸部CT	1		1			
	問診+胸部X線のみ	1		1			
	問診+胸部CTのみ						
	問診のみ						
	計	2	0.5%	2	0.9%	0	0.0%
40～49歳	問診+胸部X線+胸部CT	31		17		14	
	問診+胸部X線のみ	23		11		12	
	問診+胸部CTのみ						
	問診のみ						
	計	54	12.3%	28	12.3%	26	12.4%
50～59歳	問診+胸部X線+胸部CT	50		25		25	
	問診+胸部X線のみ	44		19		25	
	問診+胸部CTのみ						
	問診のみ						
	計	94	21.5%	44	19.3%	50	23.8%
60～69歳	問診+胸部X線+胸部CT	64		30		34	
	問診+胸部X線のみ	98		50		48	
	問診+胸部CTのみ						
	問診のみ						
	計	162	37.0%	80	35.1%	82	39.0%
70～79歳	問診+胸部X線+胸部CT	41		25		16	
	問診+胸部X線のみ	70		41		29	
	問診+胸部CTのみ						
	問診のみ						
	計	111	25.3%	66	28.9%	45	21.4%
80～89歳	問診+胸部X線+胸部CT	6		3		3	
	問診+胸部X線のみ	8		4		4	
	問診+胸部CTのみ	1		1			
	問診のみ						
	計	15	3.4%	8	3.5%	7	3.3%
90～99歳	問診+胸部X線+胸部CT						
	問診+胸部X線のみ						
	問診+胸部CTのみ						
	問診のみ						
	計	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	問診+胸部X線+胸部CT	193		101		92	
	問診+胸部X線のみ	244		126		118	
	問診+胸部CTのみ	1		1		0	
	問診のみ	0		0		0	
	計	438	100.0%	228	100.0%	210	100.0%

※平成20年2月5日現在

(2) 調査協力者の医学的所見・ばく露歴の整理

調査協力者の医学的所見・ばく露歴について、A～C表に整理し、以下のとおり、取りまとめた。

A表:2007年度受診者

症例番号	性別	生年(西暦)	2006年度所見	2007年度X線所見	2007年度CT	最新の所見	疾患名	ア.直接 職業あり	イ.間接 職業あり	ウ.家庭 内ばく露 あり	エ.立入 屋内環 境ばく露 あり	オ.その他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理由)
1	男	1930代	⑩	不変	—	⑩	f	●					ア	肺気腫	
2	女	1930代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					ア	腎のう胞	
3	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
4	男	1920代	②,⑩	増悪	—	②,⑩	f	●					ア	肺気腫	
5	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
6	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
7	男	1930代	なし	新所見	—	⑩	なし	●					ア	左右上肺野小結節	
8	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
9	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
10	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
11	男	1930代	⑧	新所見	○	⑧	なし	●					ア		
12	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
13	女	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア	肋骨横隔膜角鈍化	
14	男	1930代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
15	男	1930代	⑩	比較なし	—	⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
16	男	1930代	②,⑥	不変	—	②,⑥	なし	●					ア		
17	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
18	男	1920代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●					ア		
19	男	1930代	②,⑨,⑩	不変	—	②,⑨,⑩	f	●					ア	肺気腫	
20	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
21	女	1920代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●					ア	左下野不整形陰影、気管支	
22	女	1930代	⑨,⑩	不変	—	⑨,⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
23	男	1940代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
24	女	1940代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
25	男	1940代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
26	男	1940代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
27	女	1940代	②,⑥,⑩	増悪	—	②,⑥,⑩	o	●					ア	気腫性変化	
28	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
29	男	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
30	女	1940代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●					ア		
31	男	1930代	②,⑥,⑧,⑨	不変	—	②,⑥,⑧,⑨	なし	●					ア		
32	男	1930代	②,⑥,⑨,⑩	不変	—	②,⑥,⑨,⑩	o	●					ア	気管支拡張	
33	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
34	男	1930代	②,⑨,⑩	不変	—	②,⑨,⑩	なし	●					ア	ブラ、気腫性変化	
35	男	1940代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					ア	胸部大動脈拡張、気管支拡張	
36	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
37	男	1940代	②,⑤,⑥,⑩	不変	—	②,⑤,⑥,⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
38	女	1940代	②	不変	○	②	なし	●					ア		
39	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
40	男	1950代	⑩	新所見	—	⑩	なし	●					ア	右中野、左下野不整形陰影	
41	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
42	男	1930代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●					ア	胸膜肥厚	
43	男	1930代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
44	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
45	女	1950代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
46	女	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
47	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア	心拡大	
48	男	1930代	②,⑧,⑩	増悪	○	②,⑧,⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
49	女	1920代	②,⑧,⑩	増悪	○	②,⑧,⑩	なし	●					ア	気管支拡張	
50	女	1940代	なし	新所見	—	⑩	なし	●					ア	右上肺野結節	
51	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
52	女	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
53	女	1930代	⑨	不変	—	⑨	なし	●					ア		
54	男	1940代	②	新所見	—	②,⑩	なし	●					ア	左胸水疑い	

症例番号	性別	生年(西暦)	2006年度所見	2007年度X線所見	2007年度CT	最新の所見	疾患名	ア直接 職業あり	イ間接 職業あり	ウ家庭 内ばく露 あり	エ立入・ 屋内環 境ばく露 あり	オその他	ばく露 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理由)
55	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
56	男	1950代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
57	男	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
58	男	1940代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●					ア		
59	男	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
60	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
61	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
62	男	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
63	男	1940代	②,⑨, ⑩	不変	—	②,⑨, ⑩	なし	●					ア	気腫性変化	
64	男	1930代	②,⑨, ⑩	不変	—	②,⑨, ⑩	なし	●					ア	肋骨横隔膜角 鈍化	
65	女	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
66	女	1940代	②,⑦, ⑩	新所見	—	①,②, ⑦,⑩	なし	●					ア	炎症後変化	
67	男	1930代	②	不変	—	②	なし	●					ア		
68	男	1930代	⑨	不変	—	⑨	なし	●					ア		
69	男	1950代	②,⑩	不変	—	②,⑩	f	●					ア	肺気腫	
70	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					ア		
71	女	1920代	—	②,③	○	②,③	なし	●					ア		
72	女	1940代	—	なし	○	なし	なし	●					ア		
73	男	1940代	—	②,⑥	○	②,⑥	なし	●					ア		
74	女	1930代	—	②	○	②	なし	●					ア		
75	男	1930代	—	なし	○	なし	なし	●					ア		
76	男	1930代	—	⑩	○	⑩	なし	●					ア	肺気腫	
77	男	1930代	—	②	○	②	—	●					ア		
78	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●					ア	右S4・3mm結節	
79	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●					ア	肺尖の陳旧性 変化	
80	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし	●					ア	左S1+2結節 8mm	
81	男	1930代	—	②,⑩	○	②,⑩	なし	●					ア	両肺尖胸膜肥 厚、右S4粒状	
82	男	1930代	—	⑧,⑨	○	⑧,⑨	なし	●					ア		
83	男	1930代	—	②	○	②	なし	●					ア		
84	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●					ア	右S1+2巨大ブ ラ、右S8・3mm 結節	
85	男	1950代	—	②	○	②	—	●					ア		
86	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●					ア	胸膜肥厚、胸 膜石灰化、ブラ	
87	男	1930代	—	⑥	○	⑥	なし	●					ア		
88	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●	●				ア		
89	男	1940代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●	●				ア		
90	男	1930代	⑩	新所見	—	⑩	なし	●	●				ア	右中肺野結 節、右下野内 側肺紋理増強	
91	男	1940代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●	●				ア	心膜プラーク	
92	男	1940代	②,⑤, ⑨,⑩	不変	—	②,⑤, ⑨,⑩	なし	●	●				ア	気管支拡張、気 腫性変化	
93	男	1940代	②,⑤, ⑥,⑩	増悪	—	②,⑤, ⑥,⑩	なし	●	●				ア	斑状影	
94	男	1930代	—	②,⑩	○	②,⑩	—	●	●				ア	右腎のう胞	
95	男	1940代	—	⑨	○	⑨	—	●	●				ア		
96	男	1930代	—	⑩	○	⑩	なし	●	●				ア	左右下葉結節 3mm超	
97	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●	●	●	●		ア	左横隔膜網状 影、両肺尖胸 膜肥厚	
98	女	1960代	—	⑩	○	⑩	なし	●	●		●	●	ア	右胸膜下葉状	
99	男	1930代	⑩	不変	—	⑩	なし	●	●			●	ア	気管支拡張	
100	男	1930代	②	不変	—	②	なし	●	●	●			ア		
101	男	1940代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●	●	●			ア		
102	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●	●	●			ア		
103	女	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●	●	●			ア		
104	女	1940代	②,⑤, ⑥,⑨	不変	—	②,⑤, ⑥,⑨	c	●	●	●			ア		

症例番号	性別	生年(西暦)	2006年度所見	2007年度X線所見	2007年度CT	最新の所見	疾患名	ア,直接 職業あり	イ,間接 職業あり	ウ,家庭 内ばく露 あり	エ,立入・ 屋内環 境ばく露 あり	オ,その 他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理由)
105	女	1940代	②,⑤, ⑧,⑩	不変	○	②,⑤, ⑧,⑩	なし	●		●			ア	両肺野胸壁下 小結節散在	
106	男	1940代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●		●			ア		
107	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●		●			ア		
108	女	1930代	②,⑥, ⑩	不変	—	②,⑥, ⑩	なし	●		●			ア	気管支拡張,ブ ラ	
109	男	1920代	②,⑥, ⑩	不変	—	②,⑥, ⑩	c	●		●			ア	気管支拡張	
110	女	1930代	②,⑤, ⑥	不変	—	②,⑤, ⑥	なし	●		●			ア		
111	女	1930代	②,⑨, ⑩	不変	—	②,⑨, ⑩	なし	●		●			ア	気腫性変化	
112	女	1930代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●		●			ア		
113	男	1930代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●		●			ア		
114	女	1940代	②	不変	—	②	なし	●		●			ア		
115	女	1930代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●		●			ア	気腫性変化	
116	男	1930代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●		●			ア		
117	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●		●			ア		
118	女	1930代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●		●			ア	気腫性変化 前回のCTより 経過観察必 要、粒状影	
119	女	1950代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●		●			ア		
120	男	1940代	②,③, ⑤,⑥	不変	—	②,③, ⑤,⑥	e	●		●			ア		
121	女	1940代	②,⑩	増悪	—	②,⑩	なし	●		●			ア	斑状影	
122	男	1950代	—	②	○	②	なし	●		●			ア		
123	男	1940代	—	なし	○	なし	—	●		●			ア		
124	女	1950代	②,⑧, ⑩	不変	○	②,⑧, ⑩	なし	●		●	●		ア	気管支拡張、ブ ラ	
125	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●		●	●		ア		
126	男	1940代	②	不変	—	②	なし	●		●	●	●	ア		
127	男	1920代	②,⑩	新所見	—	②,⑧, ⑩	なし	●		●	●	●	ア	気腫性変化	
128	女	1920代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし	●		●		●	ア	左中肺野小結 節、気管支拡	
129	女	1930代	—	⑤,⑥	○	⑤,⑥	なし	●		●		●	ア		
130	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●		●		●	ア		
131	男	1930代	②,⑦, ⑩	不変	—	②,⑦, ⑩	なし	●		●		●	ア	左横隔膜角鈍 化	
132	女	1940代	⑧	不変	○	⑧	なし	●		●		●	ア		
133	女	1940代	②,⑤, ⑥,⑧	不変	—	②,⑤, ⑥,⑧	なし	●		●		●	ア		
134	男	1930代	②,⑨, ⑩	不変	—	②,⑨, ⑩	なし	●		●		●	ア	肋骨横隔膜角 鈍化	
135	女	1930代	②	不変	—	②	なし	●		●		●	ア		
136	男	1930代	⑤,⑥, ⑨,⑩	不変	—	⑤,⑥, ⑨,⑩	なし	●		●		●	ア	心肥大	
137	男	1930代	⑩	不変	—	⑩	なし	●		●		●	ア	肺気腫	
138	男	1930代	②,⑤, ⑨,⑩	不変	—	②,⑤, ⑨,⑩	なし	●		●		●	ア	気腫性変化	
139	男	1910代	②,③, ⑥,⑨	不変	—	②,③, ⑥,⑨	e	●		●		●	ア		
140	女	1930代	—	②,⑩	○	②,⑩	なし	●		●		●	ア	肋骨横隔膜角 鈍化	
141	男	1940代	—	なし	○	なし	なし	●		●		●	ア		
142	女	1940代	—	なし	○	なし	なし	●		●		●	ア		
143	男	1940代	②	不変	—	②	なし	●			●		ア		
144	男	1930代	②,⑥, ⑩	不変	—	②,⑥, ⑩	なし	●			●		ア	ブラ	
145	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●			●		ア	右S1小結節影 3mm	
146	男	1940代	—	なし	○	なし	—	●			●		ア		
147	男	1940代	⑩	不変	—	⑩	なし	●			●	●	ア	気管支拡張	
148	男	1940代	—	②	○	②	なし	●			●	●	ア		
149	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●			●	●	ア	両肺尖硬化巣	
150	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●			●	●	ア	炎症後変化	
151	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●			●	●	ア	左S1+2結節影	
152	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●			●	●	ア	肺尖部胸膜肥	

症例番号	性別	生年(西暦)	2006年度X線所見	2007年度X線所見	2007年度CT	最新の所見	疾患名	ア直接 隣歴あり	イ間接 隣歴あり	ウ家庭 内ばく露 あり	エ立入・ 屋内環 境ばく露 あり	オその 他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理由)
153	男	1960代	—	なし	○	なし	なし	●				●	ア		
154	女	1940代	②,⑤, ⑥,⑨, ⑩	不変	—	②,⑤, ⑥,⑨, ⑩	なし	●				●	ア	炎症後変化	
155	女	1930代	②	不変	—	②	なし	●				●	ア		
156	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●				●	ア		
157	男	1940代	⑧,⑨, ⑩	増悪	○	⑧,⑨, ⑩	b	●				●	ア	肺気腫	
158	男	1930代	②,⑨, ⑩	不変	—	②,⑨, ⑩	なし	●				●	ア	ブラ	
159	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●				●	ア		
160	男	1950代	⑩	不変	—	⑩	なし	●				●	ア	気腫性変化,気 管支拡張	
161	男	1930代	②,⑩	不変	—	②,⑩	f	●				●	ア	肺気腫	
162	女	1930代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●				●	ア		
163	男	1940代	⑩	増悪	—	⑩	なし	●				●	ア	左中肺野斑状	
164	男	1940代	②,⑨, ⑩	増悪	—	②,⑨, ⑩	なし	●				●	ア	結節影増大, 気腫性変化	
165	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●				●	ア		
166	男	1940代	②,⑤, ⑥	不変	—	②,⑤, ⑥	なし	●				●	ア		
167	女	1950代	—	なし	○	なし	なし	●				●	ア		
168	女	1930代	—	なし	○	なし	—	●				●	ア		
169	男	1940代	—	なし	○	なし	なし	●				●	ア		
170	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●				●	ア	左S8小結節	
171	男	1950代	—	⑩	○	⑩	—	●				●	ア	両肺尖胸膜肥	
172	男	1950代	—	⑥,⑩	○	⑥,⑩	—	●				●	ア	肺気腫	
173	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●				●	ア	胸膜肥厚	
174	男	1930代	—	②,⑩	○	②,⑩	—	●				●	ア	肺気腫	
175	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし	●				●	ア	右S8、左S8結 節影	
176	男	1940代	—	②	○	②	なし	●				●	ア		
177	男	1950代	⑩	不変	—	⑩	なし	●	●				イ	肺気腫	
178	男	1960代	なし	新所見	—	⑩	なし	●	●				イ	左上肺野結節	
179	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
180	男	1930代	②,③, ⑥,⑨	不変	—	②,③, ⑥,⑨	e	●	●				イ		
181	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
182	男	1950代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					イ	気腫性変化,気 管支拡張	
183	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
184	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
185	女	1920代	⑨	不変	—	⑨	なし	●					イ		
186	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
187	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
188	男	1950代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●					イ		
189	女	1960代	⑩	不変	—	⑩	なし	●					イ	気管支拡張	
190	男	1960代	なし	不変	—	なし	なし	●					イ		
191	男	1950代	—	なし	○	なし	なし	●					イ		
192	男	1930代	—	②,⑤	○	②,⑤	なし	●					イ		
193	女	1930代	—	なし	○	なし	なし	●					イ		
194	男	1960代	—	②,⑩	○	②,⑩	なし	●					イ	右葉間胸膜限 局性肥厚、右 上葉境界不鮮 明GGO	
195	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●					イ	右S4粒状影	
196	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●					イ	左葉間結節	
197	男	1960代	—	なし	○	なし	—	●					イ		
198	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし	●					イ	右S9結節4mm	
199	女	1960代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし	●	●				イ		
200	女	1960代	なし	不変	—	なし	なし	●	●			●	イ		
201	女	1940代	—	⑩	○	⑩	—	●	●			●	イ	右下葉炎症後 変化	
202	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし	●			●		イ		
203	男	1960代	—	⑩	○	⑩	—	●			●		イ	右肺尖胸膜肥	
204	男	1920代	—	⑩	○	⑩	—	●			●		イ	右S4GGO	
205	男	1960代	—	⑨,⑩	○	⑨,⑩	なし	●			●	●	イ	左S5索状影	

症例番号	性別	生年(西暦)	2006年度所見	2007年度X線所見	2007年度CT	最新所見	疾患名	A.直接 職業あり	I.間接 職業あり	ウ.家庭 内ばく露 あり	エ.立入・ 屋内環 境ばく露 あり	オ.その 他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理由)
206	女	1940代	-	⑩	○	⑩	なし		●		●	●	イ	肝のう胞?、左 中肺野索状影	
207	女	1940代	-	⑩	○	⑩	なし		●			●	イ	左中肺野索状影、 右S3-S6気管 支、血管収束 影	
208	男	1960代	なし	不変	-	なし	なし		●			●	イ		
209	女	1930代	②	不変	-	②	なし		●			●	イ		
210	男	1940代	②	不変	-	②	なし		●			●	イ		
211	男	1940代	②,⑩	不変	-	②,⑩	なし		●			●	イ	肋骨横隔膜角 鈍化	
212	女	1930代	なし	不変	-	なし	なし		●			●	イ		
213	女	1950代	なし	不変	-	なし	なし		●			●	イ		
214	男	1940代	⑩	新所見	-	⑩	なし		●			●	イ		
215	女	1940代	②,⑨, ⑩	増悪	-	②,⑨, ⑩	なし		●			●	イ	左下肺野小結 右中肺野結節 増大	
216	男	1940代	⑨,⑩	不変	-	⑨,⑩	なし		●			●	イ	気腫性変化	
217	男	1930代	②,⑨	不変	-	②,⑨	なし		●			●	イ		
218	男	1930代	②,⑨, ⑩	不変	-	②,⑨, ⑩	f		●			●	イ	肺気腫	
219	女	1940代	-	⑩	○	⑩	-		●			●	イ	肺尖胸膜肥厚	
220	男	1940代	-	⑩	○	⑩	-		●			●	イ	左S3,4小結節	
221	男	1960代	-	なし	○	なし	-		●			●	イ		
222	男	1940代	-	⑩	○	⑩	なし		●			●	イ	肺尖胸膜肥厚	
223	女	1960代	-	なし	○	なし	-		●			●	イ		
224	男	1930代	-	⑩	○	⑩	-		●			●	イ	右S3結節3mm	
225	男	1960代	-	なし	○	なし	-		●			●	イ		
226	女	1940代	-	⑩	○	⑩	-		●			●	イ	右S8索状影 右S3結節、肺 気腫	
227	男	1940代	-	⑩	○	⑩	なし		●			●	イ	両肺尖線状影	
228	女	1940代	-	⑩	○	⑩	なし		●			●	イ		
229	女	1960代	-	なし	○	なし	なし			●			ウ		
230	女	1940代	なし	不変	-	なし	なし			●			ウ		
231	女	1960代	②,⑩	不変	-	②,⑩	f			●			ウ	気腫性変化	
232	男	1950代	なし	不変	-	なし	なし			●			ウ		
233	女	1930代	②,⑩	不変	-	②,⑩	なし			●			ウ	左下野石灰 像、気腫性変	
234	女	1940代	なし	不変	-	なし	なし			●			ウ		
235	女	1930代	なし	不変	-	なし	なし			●			ウ		
236	女	1950代	⑩	不変	-	⑩	なし			●			ウ	気管支拡張	
237	女	1940代	-	なし	○	なし	なし			●			ウ		
238	女	1950代	なし	不変	-	なし	なし			●	●		ウ		
239	男	1960代	⑨	不変	-	⑨	なし			●	●		ウ		
240	女	1950代	なし	不変	-	なし	なし			●	●		ウ		
241	女	1940代	②,⑨	不変	-	②,⑨	なし			●	●		ウ		
242	女	1960代	なし	不変	-	なし	なし			●	●		ウ		
243	男	1950代	②,⑨	不変	-	②,⑨	なし			●	●		ウ		
244	男	1960代	②	不変	-	②	なし			●	●		ウ		
245	女	1960代	-	なし	○	なし	なし			●	●	●	ウ		
246	女	1930代	②	不変	-	②	なし			●	●	●	ウ		
247	女	1950代	なし	不変	-	なし	なし			●	●	●	ウ		
248	女	1940代	-	⑩	○	⑩	なし			●		●	ウ	肝のう胞	
249	女	1940代	なし	不変	-	なし	なし			●		●	ウ		
250	男	1950代	②	新所見	-	②,⑩	なし			●		●	ウ	右中肺野帯状	
251	女	1940代	なし	不変	-	なし	なし			●		●	ウ		
252	女	1950代	なし	不変	-	なし	なし			●		●	ウ		
253	女	1950代	②	不変	-	②	なし			●		●	ウ		
254	男	1950代	②,⑩	不変	-	②,⑩	f			●		●	ウ	肺気腫	
255	男	1960代	②	不変	-	②	なし			●		●	ウ		
256	女	1960代	なし	不変	-	なし	なし			●		●	ウ		
257	女	1940代	②,⑤, ⑥	不変	-	②,⑤, ⑥	なし			●		●	ウ		
258	女	1940代	なし	不変	-	なし	なし			●		●	ウ		
259	女	1940代	なし	不変	-	なし	なし			●		●	ウ		
260	女	1950代	なし	不変	-	なし	なし			●		●	ウ		
261	女	1940代	なし	不変	-	なし	なし			●		●	ウ		
262	女	1950代	なし	不変	-	なし	なし			●		●	ウ		
263	女	1940代	-	⑩	○	⑩	なし			●		●	ウ	右S7結節	

症例番号	性別	生年(西暦)	2006年度所見	2007年度X線所見	2007年度CT	最新の所見	疾患名	ア.直接 職歴あり	イ.間接 職歴あり	ウ.家庭 内ばく露 あり	エ.立入・ 屋内環 境ばく露 あり	オ.その他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理由)
264	女	1930代	—	⑩	○	⑩	—			●		●	ウ	左下葉炎症様所見	
265	男	1940代	—	なし	○	なし	なし			●		●	ウ		
266	男	1920代	②,⑨,⑩	不変	—	②,⑨,⑩	f				●		エ	ブラ、肺気腫	
267	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし				●		エ		
268	男	1960代	⑩	不変	—	⑩	なし				●		エ	気管支拡張	
269	男	1960代	なし	不変	—	なし	なし				●		エ		
270	男	1930代	—	⑩	○	⑩	なし				●		エ	左肺尖・左中肺野索状～斑状	
271	女	1950代	—	なし	○	なし	なし				●	●	エ		
272	女	1930代	—	②,⑩	○	②,⑩	なし				●	●	エ	慢性気管支拡張、慢性炎症疑い	
273	男	1950代	—	⑩	○	⑩	なし				●	●	エ	右S5粒状影、炎症後変化	
274	女	1960代	—	⑩	○	⑩	なし				●	●	エ	右S4結節	
275	女	1960代	—	⑩	○	⑩	なし				●	●	エ	右肺尖ブラ	
276	男	1950代	—	⑩	○	⑩	なし				●	●	エ	肝右葉低吸収	
277	女	1960代	—	なし	○	なし	なし				●	●	エ		
278	女	1960代	なし	不変	—	なし	なし				●	●	エ		
279	女	1960代	⑩	不変	—	⑩	なし				●	●	エ	肺気腫	
280	女	1950代	⑩	不変	○	⑩	なし				●	●	エ	粒状影	
281	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし				●	●	エ		
282	男	1950代	②	不変	—	②	なし				●	●	エ		
283	男	1940代	—	⑩	○	⑩	—				●	●	エ	小結節、bleb or bulla	
284	女	1930代	—	⑩	○	⑩	—				●	●	エ	左副腎腫大疑い、左スリガラス陰影	
285	男	1950代	—	⑩	○	⑩	—				●	●	エ	右S1軽度胸膜肥厚	
286	男	1930代	—	⑩	○	⑩	—				●	●	エ	炎症後変化	
287	男	1940代	—	なし	○	なし	なし				●	●	エ		
288	男	1930代	—	⑩	○	⑩	なし				●	●	エ	右S8結節4mm	
289	女	1940代	—	⑩	○	⑩	—				●	●	エ	両肺尖硬化巣	
290	男	1950代	—	⑩	○	⑩	—				●	●	エ	左下葉、炎症様所見	
291	男	1920代	—	⑩	○	⑩	—				●	●	エ	左肺尖胸膜肥	
292	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし				●	●	エ	肺気腫	
293	女	1930代	—	⑩	○	⑩	なし				●	●	エ	右S1結節	
294	女	1930代	—	②,⑩	○	②,⑩	なし				●	●	エ	右中葉索状影	
295	女	1950代	—	なし	○	なし	なし				●	●	エ		
296	男	1930代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
297	男	1940代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
298	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右S4索状影、左S5不整形陰	
299	女	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	両肺尖胸膜肥厚、右S9・3mm、右S8・ 結節	
300	男	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右上葉・左右下葉不整形陰	
301	女	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	硬化巣、索状	
302	女	1920代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左S9ブラ	
303	男	1920代	—	①,⑦	○	①,⑦	なし					●	オ		
304	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左中肺野結節	
305	女	1920代	—	⑧	○	⑧	なし					●	オ		
306	男	1960代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	前縦隔腫瘤	
307	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右中葉、左舌区索状～斑状	
308	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左副腎腫瘤	
309	女	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右S5結節影、心陰影拡大、気管支拡張、右上中葉索状影	
310	女	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右上中葉間結	
311	女	1960代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右S3結節3mm2個	
312	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ		

症例番号	性別	生年(西暦)	2006年度所見	2007年度×線所見	2007年度CT	最新の所見	疾患名	ア.直接 職業あり	イ.間接 職業あり	ウ.家庭 内ばく露 あり	エ.立入 屋内環 境ばく露 あり	オ.その他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理由)
313	男	1930代	—	②	○	②	なし					●	オ		
314	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	肺気腫、プラ、 GGO	
315	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左S5索状影	
316	男	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左S5索状影	
317	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
318	女	1940代	なし	新所見	—	⑩	なし					●	オ	粒状影	
319	男	1930代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
320	女	1950代	⑩	不変	—	⑩	なし					●	オ	プラ	
321	男	1920代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
322	女	1930代	⑨,⑩	不変	—	⑨,⑩	なし					●	オ	気腫性変化	
323	女	1930代	⑧,⑩	増悪	○	⑧,⑩	なし					●	オ	気管支拡張症	
324	女	1950代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
325	男	1930代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし					●	オ	肋骨横隔膜角 鈍化	
326	女	1940代	⑩	不変	—	⑩	なし					●	オ	気管支拡張	
327	女	1940代	②	不変	○	②	なし					●	オ		
328	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
329	男	1920代	⑩	不変	—	⑩	なし					●	オ	左横隔膜挙上	
330	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
331	男	1950代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
332	女	1950代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
333	男	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	肺尖胸膜肥 厚、右S5炎症 後変化	
334	女	1940代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
335	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
336	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
337	男	1940代	②,⑧, ⑩	不変	—	②,⑧, ⑩	f					●	オ	肺気腫	
338	男	1930代	⑩	不変	—	⑩	なし					●	オ	気腫性変化	
339	女	1960代	⑩	不変	—	⑩	なし					●	オ	気腫性変化	
340	男	1950代	⑩	新所見	—	⑩	なし					●	オ	OP後	
341	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
342	女	1920代	⑨,⑩	不変	—	⑨,⑩	f					●	オ	食道裂孔ヘル ニア疑い	
343	女	1950代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
344	男	1930代	なし	新所見	—	⑩	なし					●	オ	斑状影	
345	男	1930代	①	不変	—	①	f					●	オ		
346	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
347	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
348	女	1940代	②	不変	—	②	なし					●	オ		
349	男	1920代	②,⑤, ⑦	不変	—	②,⑤, ⑦	なし					●	オ		
350	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
351	女	1950代	②,⑦	不変	—	②,⑦	なし					●	オ		
352	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
353	女	1940代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし					●	オ		
354	男	1930代	②	不変	—	②	なし					●	オ		
355	男	1930代	⑩	不変	—	⑩	なし					●	オ	炎症後変化	
356	女	1930代	②,⑩	不変	—	②,⑩	なし					●	オ	心肥大	
357	男	1950代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
358	男	1950代	⑨,⑩	不変	—	⑨,⑩	なし					●	オ	プラ	
359	女	1940代	⑧,⑩	不変	—	⑧,⑩	なし					●	オ	気腫性変化	
360	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
361	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
362	女	1940代	⑨,⑩	不変	○	⑨,⑩	f					●	オ	肺気腫	
363	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
364	女	1930代	②	不変	—	②	なし					●	オ		
365	女	1930代	②	不変	—	②	なし					●	オ		
366	女	1930代	⑩	増悪	—	⑩	なし					●	オ	肋骨横隔膜角 鈍化	
367	男	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
368	女	1940代	⑩	不変	—	⑩	なし					●	オ	気腫性変化	
369	女	1960代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
370	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
371	女	1940代	⑩	不変	—	⑩	なし					●	オ	気腫性変化	
372	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		

症例番号	性別	生年(西暦)	2006年度所見	2007年度X線所見	2007年度CT	最新の所見	疾患名	A.直接職業あり	I.間接職業あり	ウ.家庭内ばく露あり	エ.立入・屋内環境ばく露あり	オ.その他	ばく露歴分類案	備考(その他所見)	備考(終了理由)
373	女	1930代	②,⑧,⑨	不変	○	②,⑧,⑨	なし					●	オ		
374	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
375	男	1930代	②,⑨	不変	—	②,⑨	なし					●	オ		
376	男	1930代	②	不変	—	②	なし					●	オ		
377	女	1940代	なし	新所見	—	⑩	なし					●	オ	右肺尖部小結	
378	男	1930代	②	不変	—	②	なし					●	オ		
379	女	1930代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
380	女	1940代	なし	不変	—	なし	なし					●	オ		
381	男	1930代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
382	女	1940代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
383	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	粒状影	
384	女	1960代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
385	女	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右肺尖部胸膜肥厚	
386	男	1960代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
387	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	肺内石灰化、食道ヘルニア	
388	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	小結節影3mm、葉間リン	
389	女	1940代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
390	女	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	小石灰化結節、胆石	
391	女	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	心臓小石灰化	
392	女	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	肺尖部胸膜肥厚、炎症後変	
393	女	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	舌区石灰化、甲状腺のう胞、左葉間胸膜肥厚	
394	女	1950代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
395	女	1920代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左中肺野石灰化索状影	
396	男	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	両肺横隔膜面線状影	
397	女	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	肝のう胞、左腎のう胞	
398	男	1920代	—	②,⑤	○	②,⑤	なし					●	オ		
399	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左下肺線状影	
400	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	両中肺野斑状~索状影	
401	女	1940代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
402	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右S9小結節	
403	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左S5胸膜肥厚	
404	男	1920代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	肺尖部石灰化胸膜肥厚、左S5小結節	
405	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右S6索状影	
406	男	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左下葉線状影	
407	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左腎のう胞、左腎石、左下肺野スリガラス陰影	
408	男	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左S9索状影+小結節	
409	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右中葉索状影、右中肺野	
410	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右肺尖胸膜肥	
411	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右S5,8粒状影、斑状影	
412	男	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	舌区炎症後変化、甲状腺左葉低吸収域	
413	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左下葉炎症様所見	
414	男	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右S2GGO	
415	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ		
416	男	1950代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
417	女	1940代	—	②	○	②	なし					●	オ		
418	男	1920代	—	②,⑩	○	②,⑩	なし					●	オ	old pleuritis石灰化あり	
419	女	1930代	—	⑧,⑩	○	⑧,⑩	なし					●	オ	両肺尖胸膜肥	
420	女	1960代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	肺尖部胸膜肥	
421	男	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	舌区炎症後変	
422	男	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	肺気腫	
423	女	1960代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	石灰化	
424	男	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右S4左S10結節影、右上葉ブーラ・胸膜肥厚	
425	女	1960代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	葉間結節3mm	

症例番号	性別	生年(西暦)	2006年度所見	2007年度X線所見	2007年度CT	最新の所見	疾患名	ア直接 職歴あり	イ間接 職歴あり	ウ家庭 内ばく露 あり	エ立入・ 屋内環 境ばく露 あり	オその他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理由)
426	男	1940代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
427	女	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右S1結節4mm	
428	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	前縦隔腫瘤	
429	女	1940代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
430	男	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左S8結節3mm	
431	男	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	左腎のう胞、右下肺石灰化小結節、右肺門縦隔石灰化リンパ節、両肺尖胸膜肥厚	
432	女	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	胸膜肥厚+硬化巣	
433	男	1920代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	ブラ、左胸膜小石灰化、右索状影	
434	女	1920代	—	②,⑩	○	②,⑩	なし					●	オ	左S9結節3mm	
435	女	1940代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	肝のう胞	
436	女	1950代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右S5索状影	
437	女	1930代	—	⑩	○	⑩	なし					●	オ	右S6粒状影+石灰像、肝右葉のう胞	
438	男	1960代	—	なし	○	なし	なし					●	オ		
計438名(男性:228名、女性:210名)								176	64	84	61	264			

A表(別表):2007年度受診していない方(過去に受診歴のある方)

症例番号	性別	生年(西暦)	2006年度所見	2007年度X線所見	2007年度CT	最新の所見	疾患名	ア直接 職歴あり	イ間接 職歴あり	ウ家庭 内ばく露 あり	エ立入・ 屋内環 境ばく露 あり	オその他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理由)
1	男	1930代	②,⑤,⑧,⑨	—	—	—	なし	●					ア		
2	男	1930代	⑨,⑩	—	—	—	なし	●					ア	気管支拡張,気腫性変化	
3	女	1930代	⑦,⑨,⑩	—	—	—	なし	●					ア	気腫性変化	
4	男	1940代	なし	—	—	—	なし	●					ア		
5	女	1930代	なし	—	—	—	なし	●					ア		
6	女	1930代	②,⑨,⑩	—	—	—	f	●					ア	気管支拡張,肺気腫	
7	女	1930代	なし	—	—	—	なし	●					ア		
8	男	1940代	②,⑤,⑥,⑩	—	—	—	f	●					ア	肺気腫、気管支拡張	
9	女	1920代	②	—	—	—	なし	●					ア		
10	男	1930代	②,⑨,⑩	—	—	—	なし	●					ア	炎症後変化	
11	男	1950代	なし	—	—	—	なし	●					ア		
12	女	1940代	②,⑨	—	—	—	なし	●					ア		
13	女	1930代	なし	—	—	—	なし	●					ア		
14	男	1930代	なし	—	—	—	なし	●					ア		
15	男	1940代	②,⑨	—	—	—	なし	●					ア		
16	男	1930代	②	—	—	—	なし	●					ア		
17	女	1930代	②,③	—	—	—	e	●					ア		
18	女	1930代	②	—	—	—	なし	●					ア		
19	女	1930代	なし	—	—	—	なし	●					ア		
20	男	1940代	②,③,⑦,⑨	—	—	—	e	●					ア		
21	男	1940代	②,⑥,⑩	—	—	—	なし	●	●				ア	肺気腫	
22	男	1930代	②,⑤,⑥	—	—	—	なし	●		●			ア		
23	女	1940代	⑩	—	—	—	なし	●		●			ア	気管支拡張	
24	男	1940代	⑧,⑩	—	—	—	なし	●		●			ア	無気肺	
25	女	1940代	なし	—	—	—	なし	●		●			ア		
26	女	1920代	②,⑨	—	—	—	なし	●		●			ア		
27	女	1930代	②,⑨,⑩	—	—	—	なし	●		●	●		ア	気腫性変化	
28	男	1930代	⑧,⑨	—	—	—	b	●		●		●	ア		

症例番号	性別	生年(西暦)	2006年度所見	2007年度X線所見	2007年度CT	最新の所見	疾患名	ア,直接 職業あり	イ,間接 職業あり	ウ,家庭 内ばく露 あり	エ,立入 屋内環 境ばく露 あり	オ,その他	ばく露歴 分類案	備考(その他所見)	備考(終了理由)
29	男	1940代	②,⑧, ⑨	-	-	-	なし	●		●		●	ア		
30	女	1930代	なし	-	-	-	なし	●		●		●	ア		
31	男	1920代	②,⑤, ⑩	-	-	-	なし	●				●	ア	気管支拡張	
32	女	1940代	なし	-	-	-	なし	●				●	ア		
33	女	1910代	②,⑥, ⑨,⑩	-	-	-	なし	●				●	ア	気管支拡張、 気腫性変化	
34	女	1950代	⑧,⑩	-	-	-	なし		●				イ	気腫性変化	
35	男	1940代	②,⑨, ⑩	-	-	-	なし		●				イ	上葉切除後	
36	男	1950代	⑨,⑩	-	-	-	なし		●	●			イ	気腫性変化	
37	男	1920代	②,⑤, ⑦	-	-	-	なし		●	●			イ		
38	男	1930代	②,⑥, ⑧,⑨	-	-	-	b,c		●			●	イ	-	
39	女	1940代	なし	-	-	-	なし			●			ウ		
40	男	1950代	⑧,⑨, ⑩	-	-	-	f			●			ウ	肺気腫	
41	男	1940代	⑨	-	-	-	なし			●			ウ		
42	女	1960代	⑩	-	-	-	なし			●	●		ウ	プラ	
43	女	1940代	②,⑨	-	-	-	なし			●	●	●	ウ		
44	女	1930代	②	-	-	-	なし			●		●	ウ		
45	男	1950代	②	-	-	-	なし			●		●	ウ		
46	男	1930代	②,⑧	-	-	-	なし					●	オ		
47	女	1940代	②,⑧, ⑨	-	-	-	f					●	オ		
48	女	1950代	なし	-	-	-	なし					●	オ		
49	女	1920代	⑥	-	-	-	なし					●	オ		
50	女	1920代	②,⑩	-	-	-	なし					●	オ	気管支拡張	
51	女	1960代	なし	-	-	-	なし					●	オ		
52	女	1930代	なし	-	-	-	なし					●	オ		
計52名(男性:24名、女性:28名)								33	6	18	3	17			

注1: 医学的所見については、胸部 X 線検査および胸部 CT 検査の結果を踏まえ、石綿関連疾患に関わる①～⑩の所見を確認する。(重複含む)

- ① 胸水貯留が認められる者
- ② 胸膜プラーク(限局性の胸膜肥厚斑)が認められる者
- ③ びまん性胸膜肥厚が認められる者
- ④ 胸膜腫瘍の疑いが認められる者
- ⑤ 胸膜下曲線様陰影の疑いが認められる者
- ⑥ 肺野の間質影が認められる者
- ⑦ 円形無気肺が認められる者
- ⑧ 肺野の腫瘤状陰影が認められる者
- ⑨ リンパ節の腫大が認められる者
- ⑩ その他の所見が認められる者

注2: 医学的所見を踏まえ、疾患名が確定できるものを分類する。(重複含む)

- a 中皮腫
- b 肺がん
- c 石綿肺(石綿に起因するじん肺であって、じん肺管理区分が管理4に該当するもの又は管理2～3で次の合併症(i 肺結核、ii 結核性胸膜炎、iii 続発性気管支炎、iv 続発性気管支拡張症、v 続発性気胸)を伴うもの。)
- d 良性石綿胸水
- e びまん性胸膜肥厚
- f その他の疾患
- g 確定できる疾患なし

注3: ばく露歴については、該当するものにすべて●を記入(ア～オは重複可)

- ア. 直接石綿を取り扱っていた職業がある者
- イ. 職場で石綿ばく露した可能性のある職業がある者
- ウ. 家族に石綿ばく露の明らかな職業がある者
- エ. 職域以外で石綿取扱い施設や吹き付け石綿の事務室等に立ち入り経験がある者
- オ. 上記ア～エ以外のばく露の可能性が特定できないもの(居住地や学校・職場等の周辺に石綿取扱い施設がある場合も含む)

(「具体的なばく露歴」の記入例)

例1 幼少期(S25-27頃)に石綿工場で遊んだ経験があり、父が石綿工場で勤務していた → ウとエ

例2 石綿工場近くの ○○小学校 にS30-35の6年間通学 → オ

例3 S28-40の間、設備の点検のため石綿工場に定期的に入出入りしていた。かつ、住居が石綿工場に近接に居住)していた → イとオ

(S26-50に○○1丁目

イとエの分類が紛らわしいものの例: 業務上で吹き付け石綿がある場所や石綿工場の敷地内に立入る場合は、原則「イ」とする。ただし、作業現場以外(事務室・当直室・食堂など)への立入に限っては「エ」とする。

注4:ばく露歴分類案については、各事案のばく露要因を1つに分類するもの。なお、複数のばく露歴がある者については、基本的には下記に従うものとする

ア. 直接石綿を取り扱っていた職歴がある者

イ. 上記アに該当せず、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者

ウ. 上記ア～イに該当せず、家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者

エ. 上記ア～ウに該当せず、石綿取扱い施設や吹き付け石綿の事務室等に立ち入り経験がある者

オ. 上記ア～エに該当しないもの

上記以外による分類が適当であると考えられる場合や判断が困難な場合には、症例番号と具体的な内容を記入し、具体的な分類については環境省と相談することとする。

--

注5:経過観察・終了の欄については、経過観察中の場合は「経」、調査終了の場合は「終」とその理由を記入する

注6:備考欄については、特記事項を記入する

(例1:X線・CT以外の検査を実施した場合の検査項目の記入、例2:労災申請中である旨の記入 等)

B表：平成2年以前に泉南地域及び河内長野市に居住していた者のばく露歴集計表

	ア.直接職歴あり	イ.間接職歴あり	ウ.家庭内ばく露あり	エ.近・屋内ばく露あり	オ.その他	小計	うち女性
●						87	29
●	●					9	0
●	●	●	●			1	0
●	●			●		1	1
●	●			●		1	0
●		●				24	15
●		●	●			2	2
●		●	●	●		2	0
●		●		●		15	8
●			●			4	0
●			●	●		6	0
●				●		24	6
	●					22	3
	●	●				1	1
	●	●		●		2	2
	●		●			3	0
	●		●	●		2	1
	●			●		22	9
		●				9	8
		●	●			7	4
		●	●	●		3	3
		●		●		18	14
			●			5	1
			●	●		25	13
				●		143	90
計*	176	64	84	61	264	438	210
うち女性*	61	17	57	25	147		

C表：平成2年以前に泉南地域及び河内長野市に居住していた者に関するばく露歴と医学的所見・疾患のクロス集計表

(C-1 所見の有無)

	計	うち女性	ア.主に直接職歴	うち女性	イ.主に間接職歴	うち女性	ウ.主に家庭内ばく露	うち女性	エ.主に近・屋内	うち女性	オ.その他	うち女性
所見あり	309	133	135	40	34	11	16	10	22	9	102	63
①胸水貯留あり	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0
②胸膜プラークあり	136	53	90	32	11	3	11	6	4	2	20	10
③びまん性胸膜肥厚あり	4	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0
④胸膜腫瘍疑いあり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤胸膜下曲線様陰影疑いあり	17	7	13	6	1	0	1	1	0	0	2	0
⑥肺野間質影あり	23	8	21	7	1	0	1	1	0	0	0	0
⑦円形無気肺あり	5	2	2	1	0	0	0	0	0	0	3	1
⑧肺野の腫瘍状陰影あり	17	10	11	5	0	0	0	0	0	0	6	5
⑨リンパ節の腫大あり	52	17	32	8	9	3	3	1	1	0	7	5
⑩その他の所見あり	220	97	81	20	26	8	8	6	21	9	84	54
所見なし	129	77	41	21	18	5	21	19	8	5	41	27
合計	438	210	176	61	52	16	37	29	30	14	143	90

(C-2 疾患の有無)

	計	うち女性	ア.主に直接職歴	うち女性	イ.主に間接職歴	うち女性	ウ.主に家庭内ばく露	うち女性	エ.主に近・屋内	うち女性	オ.その他	うち女性
疾患あり	21	5	12	2	2	0	2	1	1	0	4	2
a 中皮腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
b 肺がん	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c 石綿肺	4	2	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0
d 良性石綿胸水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e びまん性胸膜肥厚	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
f その他の疾患	13	3	5	0	1	0	2	1	1	0	4	2
疾患なし	417	205	164	59	50	16	35	28	29	14	139	88
合計	438	210	176	61	52	16	37	29	30	14	143	90

(C-3 調査対象者の状況)

	計	うち女性	ア.主に直接職歴	うち女性	イ.主に間接職歴	うち女性	ウ.主に家庭内ばく露	うち女性	エ.主に近・屋内	うち女性	オ.その他	うち女性
経過観察者	438	210	176	61	52	16	37	29	30	14	143	90
調査終了者												
合計	438	210	176	61	52	16	37	29	30	14	143	90

注1：①～⑩は重複計上含む a～fは重複計上含む

注2：ばく露歴については、A表で分類したばく露歴分類とする

注3：所見は総合所見を示す

注4：「所見あり」+「所見なし」=「疾患あり」+「疾患なし」=「経過観察者」+「調査終了者」=「合計」

D表 ばく露歴分類が「オ(その他)」の者とプロット数との関係

	泉南市		阪南市		岸和田市		貝塚市	
	プロット対象者数	プロット数	プロット対象者数	プロット数	プロット対象者数	プロット数	プロット対象者数	プロット数
胸膜ブランクあり	12	15	1	2			1	1
他の所見あり	6	6	1	1			3	5
所見なし(その他所見含む)	13	14	7	9	5	5		
合計	31	35	9	12	5	5	4	6

河内長野市		その他		合計	
プロット対象者数	プロット数	プロット対象者数	プロット数	プロット対象者数	プロット数
5	8	1	1	20	27
3	5			13	17
57	68	1	1	83	97
65	81	2	2	116	141

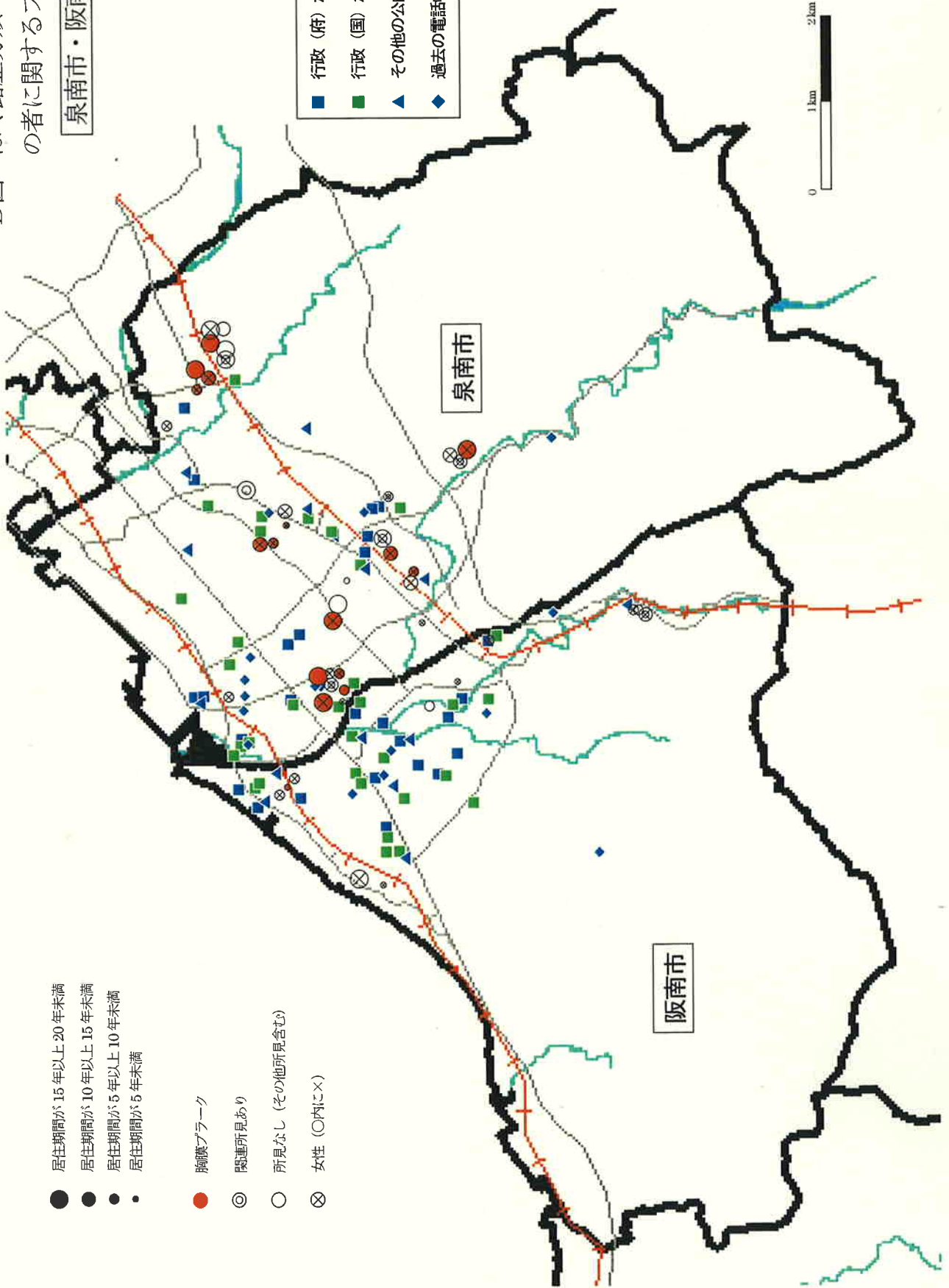
※複数地域に居住歴のある者は、それぞれの地域にプロットした。

D図 ばく露歴分類「オ(その他)」
の者に関するプロット図

- 居住期間が15年以上20年未満
- 居住期間が10年以上15年未満
- 居住期間が5年以上10年未満
- 居住期間が5年未満

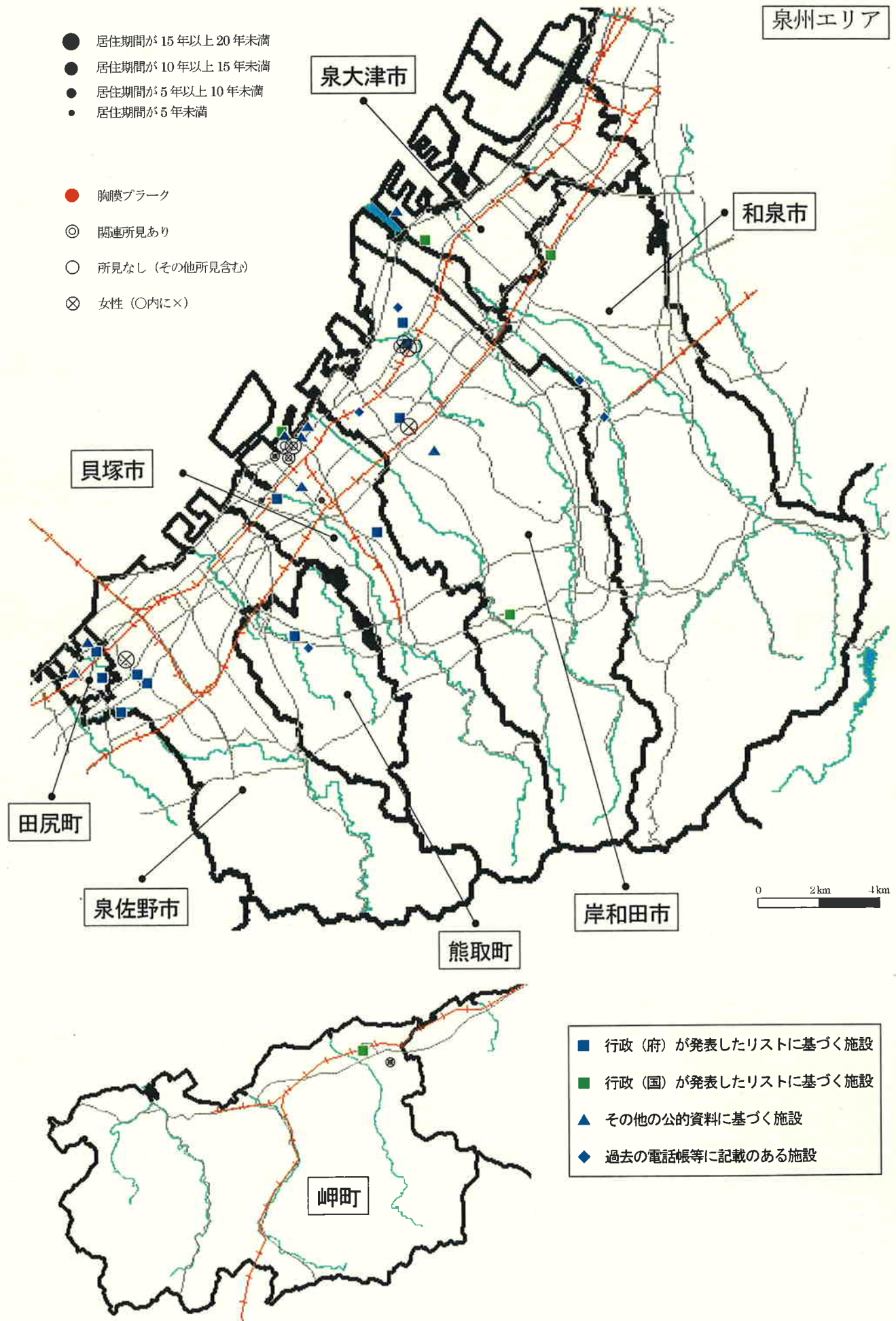
- 胸膜ブランク
- ◎ 関連所見あり
- 所見なし(その他所見含む)
- ⊗ 女性(○内に×)

泉南市・阪南市エリア



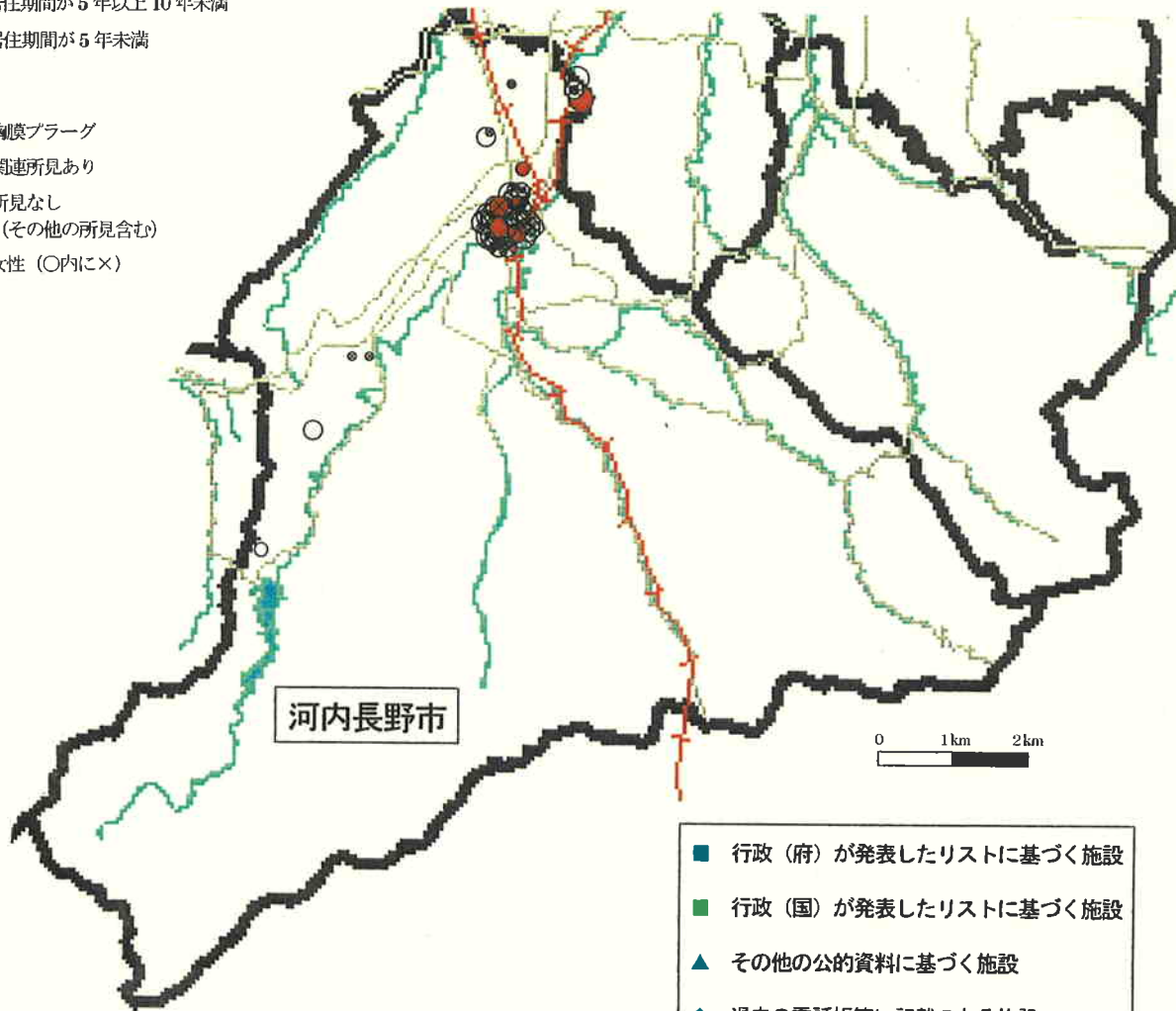
- 行政(府)が発表したリストに基づく施設
- 行政(国)が発表したリストに基づく施設
- ▲ その他の公的資料に基づく施設
- ◆ 過去の電話帳等に記載のある施設

D図 ばく露歴分類「オ（その他）」の者に関するプロット図



- 居住期間が15年以上20年未満
- 居住期間が10年以上15年未満
- 居住期間が5年以上10年未満
- 居住期間が5年未満

- 胸膜ブラーグ
- ◎ 関連所見あり
- 所見なし (その他の所見含む)
- ⊗ 女性 (○内に×)



- 行政（府）が発表したリストに基づく施設
- 行政（国）が発表したリストに基づく施設
- ▲ その他の公的資料に基づく施設
- ◆ 過去の電話帳等に記載のある施設

大阪府全域



4. 考察

上記調査の結果、次のことが確認された。

- 調査協力者 438 名のうち医学的所見のある者が 309 名 (70.5%)、疾患ありとされる者が 21 名 (4.8%) いた。
- 医学的所見が見られた調査協力者 309 名のうち、石綿に関わる何らかの職業歴や家族職業歴等のある者が 207 名 (67.0%) おり、具体的なばく露歴が特定されない者も 102 名 (33.0%) いた。
- 医学的所見が見られた調査協力者 309 名のうち、胸膜プラークのある者が 136 名 (44.0%) いた。また、疾患ありとされる 21 名のうち、石綿肺が 4 名 (19.0%)、肺がんが 1 名 (4.8%) いた。
- 具体的なばく露歴の特定されない者 102 名の医学的所見の主なものは、その他の所見 84 例 (82.4%)、胸膜プラークが 20 例 (19.6%)、リンパ節の腫大 7 例 (6.9%) であった。
- ばく露の可能性が特定されない者 102 名中の全員が居住地近傍に石綿取扱い施設があったとしている。
- 具体的なばく露歴の特定されない者のうち、所見については、胸膜プラーク、肺野の腫瘤状陰影、リンパ節腫大、その他所見が認められた。今後、石綿によるものかどうかも含めてフォローする予定である。
- 具体的なばく露歴の特定されない者のうち、胸膜下曲線様陰影疑いの所見を認める者が 2 名いた。今後、石綿によるものかどうかも含めてフォローする予定である。
- 具体的なばく露歴の特定されない者 143 名のうち、昭和 30 年～50 年の泉南地域及び河内長野市の居住が特定出来た名について、その居住歴を地図上にプロットしたところ、141 プロットになった。
- 平成 18 年度に受診し、経過観察となった 308 人中、257 人が受診しており不変 229 人、新所見 15 人、憎悪 12 人となっている。(前回と比較できない 1 人)

5. 今後の予定

次年度以降においても、2. 調査内容(エ)に示したとおり、継続調査を実施する。

6. 参考資料

- 問診票
- 大阪府アスベスト健康対策専門家会議委員一覧



石綿の健康影響の評価調査のための検診問診票

受付番号

ID番号

※太枠のみ記入してください。

フリガナ				男・女	生年月日	明・大・昭・平
氏名						年 月 日生 歳
現住所	〒	—	住所コード			電話番号
検診日	平成	年	月	日	団体名	団体使用欄1
検診番号	—				団体コード	団体使用欄2

※太枠のみ記入してください。(裏面にもあります。)

<p>1. この健康リスク調査を受ける理由はなんですか。(○をつけてください。)</p> <p>(1) 自分または家族が石綿を扱う仕事をしていた。</p> <p>(2) 石綿を扱う場所の近くに住んでいた。</p> <p>(3) 仕事以外で、身の回りにおいて石綿(製品、材料など)を扱うことがあった。</p> <p>(4) その他()</p>		○をつけた場合、追加質問に記入願います。
2. あなたのこれまでの居住歴について、2枚目「居住歴」欄に記入してください。		
3. 本人の現在までの通学歴・職歴及び石綿を扱っていたご家族の現在までの職歴を別紙調査票の「①本人の通学歴、②本人の職歴、③家族の職歴」欄に記入してください。		
4. 仕事以外で石綿を吸い込んだ可能性はありますか。(□にチェックをお願いします)		
<input type="checkbox"/> ある (その場所とその時の状況) <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> わからない		
5. 現在までに、肺の病気にかかったことがありますか。(□にチェックをお願いします)		「ある」にチェックした場合、保健師が次頁以降の追加質問に記入願います。
<input type="checkbox"/> ある () <input type="checkbox"/> なし		
6. 現在、何か症状がありますか。(□にチェックをお願いします)		
<input type="checkbox"/> ある : 発熱・せき・呼吸困難・胸痛・その他() <input type="checkbox"/> なし		
7. 家族で石綿関連疾患にかかった人はいますか。(□にチェックをお願いします)		
<input type="checkbox"/> ある : (続柄) 中皮腫・肺がん・石綿肺・その他() <input type="checkbox"/> なし		
8. 喫煙の有無 (□にチェックをお願いします)		
<input type="checkbox"/> 現在も吸っている 1日平均 本 年間(通算 本) <input type="checkbox"/> 過去に吸っていた 1日平均 本 年間 止めた時期 年前(通算 本) <input type="checkbox"/> 普段は吸わないが、稀に吸うことがある(どんな時:) <input type="checkbox"/> 吸ったことがない		
9. これまでの胸部X線検査受診の有無	1. 無 2. 有: 時期(年 月ごろ)・医療機関名() 結果:	
10. これまでの胸部CT検査受診の有無	1. 無 2. 有: 時期(年 月ごろ)・医療機関名() 結果:	
11. その他石綿ばく露があったと思われる時の周辺環境など、わかっていることがあれば、記入してください。		領収印
		問診者

③ ご家族の職歴（当時同居していた家族のうち、石綿を取り扱っていた方のみ記入）

続柄	従事した時期 (年月～年月)	会社名	所在地	仕事の内容	この期間で石綿 を扱っていたと 思われる時期	保健師チェック欄（⑥⑦以外は複数選択可）						
						①業種	②内容	③取扱 材料	④近傍 作業	⑤出入 場所	⑥吹付 部屋	⑦労災 認定
(記入例) 父	S25.4-S50.6	〇〇産業 (株)	〇県△市〇 町	石綿の吹き付け 作業を担当		11	2	3	1	2	3	1

続柄	通算	年	月
続柄	通算	年	月

○ 1に○をつけた場合

受診者の家庭生活等について記入願います（複数回答可）。

- 1 石綿製品の製造加工作業や内職が自宅であった。 年～ 年（通算 年）
- 2 家族が石綿関連の仕事についており、道具や作業着、マスク等を家に持ち帰ったことがある。 年～ 年（通算 年）
- 3 家庭で石綿製品を使って日曜大工等をしたことがある。 年～ 年（通算 年）
- 4 石綿工場・鉱山の近くに住んでいたたり、遊んでいたことがある。
4の地域：
（都道府県市町村名） 年～ 年（通算 年）
- 5 造船所の近くに住んでいたたり、遊んでいたことがある。
5の地域：
（都道府県市町村名） 年～ 年（通算 年）
- 6 倉庫や建築材料の置場の近くに住んでいたたり、遊んでいたことがある。
6の地域：
（都道府県市町村名） 年～ 年（通算 年）
- 7 自動車修理工場の近くに住んでいたたり、遊んでいたことがある。
7の地域：
（都道府県市町村名） 年～ 年（通算 年）
- 8 幹線道路や大きな交差点の近くに住んでいたことがある。
8の地域：
（都道府県市町村名） 年～ 年（通算 年）
- 9 吹きつけ石綿のある建物の部屋で、過ごしたことがある。
年～ 年（通算 年）
年～ 年（通算 年）
年～ 年（通算 年）
- 10 いずれもない
- 11 わからない

○ 5に○をつけた場合

現在までに、かかったことがある肺の病気について、ご記入願います。

- 1 肺結核
- 2 結核性胸膜炎
- 3 肺がん
- 4 慢性気管支炎
- 5 じん肺（石綿肺）
- 6 間質性肺炎（肺繊維症）
- 7 肺気腫
- 8 原因不明の胸膜炎
- 9 原因不明の胸水
- 10 その他の呼吸器の病気（)

* 職歴に関するチェック項目（記入不要）

【①業種】

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1 鉱業 | 4 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 11□ 石綿鉱業 | 41□ 配管・配線取扱い業 |
| 12□ その他の鉱業 | 42□ 電気業 |
| 2 建設業 | 43□ ガス供給業 |
| 21□ 石綿含有製品を取り扱う作業 | 44□ 熱供給業 |
| 22□ 石綿含有製品の近傍で行うその他の作業 | 45□ 水道業 |
| 23□ その他の作業 | 5 運輸業 |
| 3 製造業 | 51□ 鉄道業 |
| 30□ 石綿製品製造業 | 52□ 道路貨物運送業 |
| 31□ 清酒製造業 | 53□ 水運業 |
| 32□ 化学工業 | 54□ 倉庫業 |
| 33□ 石油製品・石炭製品製造業 | 55□ 運輸に附帯するサービス業 |
| 34 窯業・土石製品製造業 | 6 医療、福祉 |
| 341□ ガラス・同製品製造業 | 61□ 医療業 |
| 342□ セメント・同製品製造業 | 7 サービス業 |
| 343□ 建設用粘土製品製造業（陶磁器製を除く） | 71□ 廃棄物処理業 |
| 344□ 陶磁器・同関連製品製造業 | 72□ 自動車整備業 |
| 35□ 鉄鋼業 | 73□ 機械等修理業 |
| 36□ 非鉄金属製造業 | 74□ その他の事業サービス業 |
| （銅・アルミニウム・鉛などの板・合金などを製造） | 8 □ 解体業 |
| 37□ 金属製品製造業 | 9 □ その他（具体的に： _____） |
| 38□ 一般・輸送用機械器具製造業 | a □ 不明 |
| 39□ 造船業 | b □ なし |
| 3a□ 食料品製造業 | |
| 3b□ 繊維工業 | |
| 3c□ その他の製造業 | |

【②仕事内容】

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| 1 □ 石綿鉱山での作業、石綿製品の製造に関わる作業 | 2 □ 石綿や石綿含有岩綿の吹き付け・貼り付け等作業 |
| 3 □ 石綿原綿または石綿製品の運搬・倉庫内作業 | |
| 4 □ 配管・断熱・保温・ボイラー・築炉関連作業 | |
| 5 □ 造船所内の作業（造船所における事務職を含めた全職種） | 6 □ 船に乗り込んで行う作業（船員 その他） |
| 7 □ 建築現場の作業（建築現場における事務職を含めた全業種） | 8 □ 解体作業（建築物、構造物、石綿含有製品等） |
| 9 □ 港湾での荷役作業 | 10 □ 発電所・変電所での作業 |
| 11 □ 鉄鋼所または鉄鋼製品製造に関わる作業 | 12 □ 耐熱（耐火）服や耐火手袋等を使用した作業 |
| 13 □ 自動車・鉄道車両等を製造・整備・修理・解体する作業 | 14 □ 自動車・トラック・鉄道等の運行に関わる作業 |
| 15 □ ガラス製品製造に関わる作業 | 16 □ 石油精製工場、化学工場内の精製・製造や配管修理等の作業 |
| 17 □ 清掃工場・廃棄物の収集・運搬・中間処理・処分の作業 | 18 □ 電気製品・産業用機械の製造・修理に関わる作業 |
| 19 □ レンガ・陶磁器・セメント製品製造に関わる作業 | |
| 20 □ 吹き付け石綿のある部屋・建物・倉庫等での作業（教員 その他） | |
| 21 □ エレベーター製造または保守に関わる作業 | 22 □ ランドリー・クリーニングに関わる作業 |
| 23 □ ガスマスクの製造に関わる作業 | 24 □ 上下水道に関わる作業 |
| 25 □ ゴム・タイヤの製造に関わる作業 | 26 □ 道路建設・補修等に関わる作業 |
| 27 □ 映画放送舞台に関わる作業 | 28 □ 農業 |
| 29 □ 酒類製造に関わる作業 | 30 □ 消防に関する作業 |
| 31 □ 歯科技工に関わる作業 | 32 □ 金庫の製造・解体に関わる作業 |
| 33 □ その他の石綿に関連する作業（ _____ ） | |
| 34 □ タルク等石綿含有物を使用する作業 | |
| 35 □ いずれもない | 36 □ 不明（忘れた・覚えていない） |

【③仕事で取り扱った材料・製品】

- | | | |
|--------------------------------|------------------------------|------------|
| 1 □ 石綿原綿（わた・繊維） | 2 □ 石綿吹き付け材 | 3 □ 石綿フェルト |
| 4 □ 石綿保温材・煙突材 | 5 □ 石綿含有屋根材、スレート | 6 □ 石綿紙 |
| 7 □ 石綿セメント管・石綿パイプ | 8 □ 石綿含有ボード（外壁材・内装材） | |
| 9 □ 石綿パッキング・ガスケット | 10 □ 石綿織物・布・ひも・ロープ・テープ・リボンなど | |
| 11 □ 石綿含有塗料、石綿含有シーリング材、石綿含有接着剤 | | |
| 12 □ 石綿含有摩擦材（ブレーキパッドなど） | 13 □ その他の石綿製品（ _____ ） | |
| 14 □ いずれもない | 15 □ わからない | |



石綿の健康影響の評価調査のための検診問診票

受付番号 _____

ID番号 _____

※太枠のみ記入してください。記入要領は裏面をご覧ください。

フリガナ				男・女	生年月日	明・大・昭・平
氏名						年 月 日 生 歳
現住所	〒 -	住所コード			電話番号	
検診日	平成 年 月 日	団体名			団体使用欄1	
検診番号	-	団体コード			団体使用欄2	
検診番号	-					

その後の経過

- 前回の本健康リスク調査受診以後現在まで、何か気になること、又は新しい症状などありましたか。
 あった (その内容は何ですか。)()
 なかった
- 現在、何か症状がありますか。(□にチェックをお願いします)
 ある : 発熱・せき・呼吸困難・胸痛・その他()
 なし
- 家族で新たに石綿関連疾患(中皮腫、肺がんなど)を発病した人はいますか。
 いる (その病名は何ですか。いつ頃ですか。)()
 いない

特記事項

(CT検査、通院、疾病の有無等をご記入願います。)

問診者

医師

大阪府アスベスト健康対策専門家会議委員一覧

平成 20 年 3 月 31 日現在

役 職	氏 名
地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立成人病センターがん相談支援センター 所長	大島 明
大阪府立公衆衛生研究所 所長	織田 肇
独立行政法人国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター 院長	坂谷 光則
社団法人大阪府医師会 理事	中川やよい
独立行政法人国立病院機構 刀根山病院 副院長	前倉 亮治
地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 院長	水口 和夫
大阪府泉佐野保健所 所長	御前 哲雄
独立行政法人労働者健康福祉機構 大阪労災病院 院長	山田 義夫

*50 音順、敬称略